



『昔と今の遊び体験会』開催 河童の二太郎？！

冬になると川と接する機会は少なくなります。大雨が降って増水するなんてこともありませんし、流れる水も夏場ほど多くありません。そんなことからつい忘れがちですが、いつだって川はそこにあるのです。

【岩木川には上の淵、まがり淵、下の淵がありました。子どもが上の淵を歩いていたところ河童と出会いました。その河童は、「この手紙をまがり淵の河童に届けるように。」と子どもにつかいを頼みました。河童が怖くてそれを引き受けてしまった子どもは道中白髭のおじいさんに出会い事情を話すと、おじいさんは河童から預かった手紙を見せるように言いました。手紙を川の水につけると「この子どもはおいしいので是非食



▲昔話を聞いたり

お餅をついて ▶



◀ 食べた

べてください。」と文字が浮かび上がってきました。おじいさんはその手紙を書き直し、子どもに持たせました。まがり淵で子どもが河童におじいさんが書き直した手紙をわたすと、河童は早速手紙を川の水につけて読みました。そこには「この子どもは親孝行者なのでご褒美をあげなさい。」と書いてありました。そこで河童は手紙のとおり、なにやら川底から袋を持ってきて子どもに渡しました。子どもは無事家に帰り、親子3人袋を開けると中には砂金

がどっさり入っていました。岩木川でも昔は砂金が採れたのでしょうか。】

これは、川にまつわる『河童の二太郎』という昔ばなしです。弘前地区河川防災ステーションで2月3日(日)に行われた『昔と今の遊び体験会』で、津軽むがしっこ村の方々に物語っていただきました。体験会に参加したのは事前申し込みいただいた親子30名で、当防災ステーションの役割を学び津軽の昔話を聞いた後は餅つきや昔の遊びを体験していただきました。



▲遊んだり
楽しかったね!(^o^)